資料２

乳幼児期から中学生等を対象とした教育プログラムについて

京都府健康福祉部
こども・子育て総合支援室

＜乳幼児期～中学校＞令和８年度事業の概要

就学前施設（保育所・幼稚園等）や、小・中学校・義務教育学校及び特別支援学校（※以下、小・中学校等という）**において、プレコンセプションケア推進に係る取組を実施いただくため、外部講師による出前講座を実施できる体制を整備**

✓出前講座を実施する担い手の養成

出前講座を実施する（保健師・助産師等）を確保するため、養成講習会を開催

✓出前講座用教材の作成

出前講座を実施する際の質の確保や事務負担軽減のため、発達段階に応じた統一的な教材を作成

育成した担い手は、「きょうとプレコンアドバイザー」として出前講座を実施

プログラムの内容（案）

講座で育成する力（３つの柱）

1．知る：科学的な知識に基づき、自分のからだやこころの変化、健康について理解する力

2．選ぶ：自分の気持ちを伝え、相手の意思を尊重しながら、健康や将来につながる行動を主体的に選択する力

3．つながる：困りごとや不調に気づき、身近な大人や専門職へ相談し、必要な支援につながる力

1．学校で学ぶ → **2．困ったときに相談できる** → **3．身近な大人が適切に受け止める** → **4．必要な支援につながる**

小学生（高学年）・中学生対象としたプログラム

教材作成の際の方向性について

- ✓学習指導要領に即した内容とする
- ✓学校が、保健師・助産師等の専門職に期待する役割を踏まえる
- ✓生活習慣等は授業等でも学ぶ機会があるため、幅広い知識を詰め込むのではなく、ワークや体験等を通じて主体的に学ぶ機会を盛り込む
- ✓自分や他者のこころとからだを尊重する姿勢を育むプログラムとする
- ✓これまで実施してきた、小中学校への出前講座の流れを汲み、高校生教育プログラムにつながるものとする。

【指摘】ライフデザインやコミュニケーションスキルなど、きょうとプレコンの要素をもっと盛り込むべきではないか。

小学生（高学年）・中学生対象としたプログラム

事務局における検討①

学校が今回の出前講座に期待している役割は何か。

【専門職による出前講座に、学校が期待する役割】

- ✓学校は教育課程全体の中で出前講座を位置付けて実施するため、前後の学習は教員が担い、専門職には教員だけでは伝えることが難しい専門的・科学的な知識や実体験に基づく学びを提供してほしい
- ✓助産師・保健師等が、子どもたちの健康や成長にどのように関わる専門職であるかを伝えてほしい
- ✓赤ちゃん人形の抱っこ体験等を通じて、子どもたちが妊娠や出産等について、具体的にイメージしながら学べるような話をしてほしい
- ✓困ったときに相談できる専門職や支援機関が身近にあることを伝えてほしい

小学生（高学年）・中学生対象としたプログラム

事務局における検討②

ライフデザインやコミュニケーションスキルなど「きょうとプレコン」の重要な要素について、小中学生はどのように学んでいるか

【学校において実施されている事項】

- ✓ ライフデザインやコミュニケーションスキルについては、道徳科や総合的な学習（探究）の時間等を活用して学習している。
- ✓ 特にライフデザインについては、小学校から高等学校までキャリア・パスポートを活用しながら、自身の成長の振り返りや将来の生き方・進路について考える学習を継続的に実施している。
- ✓ これらの学習内容や実施手法については、各学校の実情や教育課程に応じて工夫しながら実施されている。

小学生（高学年）・中学生対象としたプログラムの方向性

検討を踏まえた整理事項

学校が専門職に期待する役割や、学校で実施されている事項を踏まえ、本プログラムを以下のように整理してはどうか。

・教育現場のニーズを踏まえ、学校と専門職（助産師・保健師等）の役割を整理した上で、出前講座では専門職ならではの科学的知識や職業を通じた学びを提供する。

・ライフデザインやコミュニケーションスキルなど「きょうとプレコン」の重要な要素についても、学校で実施する関連単元やキャリア教育等と連動して学びを深められるような授業例を示した補完教材を作成し、学校で継続して取り組んでいただく。

小学生（高学年）・中学生対象としたプログラムの方向性

今回作成する成果物

今回作成予定の成果物に、補完教材も追加

●スライド教材（小学生（高学年）向け・中学生向け、保護者等向け）

●動画教材
＜内容想定＞
・受精について　・胎児の成長について　・出産について

●補完教材（ワークシート）

●講師用プログラム

●学校（園）と実施者間の調整マニュアル

補完教材（ワークシート）については、今後、事務局案を作成し、検討会等でご意見をいただきながら検討を進める。

小学生（高学年）・中学生対象としたプログラムの方向性

プログラムの内容

- 小学生に対しては、体験やワークを重視した講座を実施し、妊娠・出産について具体的にイメージしながら学べる内容とする。また、小学５年生理科「ヒトの誕生」と関連付けて学ぶことができる内容とする。

- 中学生に対しては、思春期のからだやこころの変化について学ぶことができる内容とする。また、ワークについては、他者との共有よりも自身の考えや価値観と向き合う機会を重視する。

ご意見いただきたい事項

妊娠・出産や思春期のこころとからだの変化について、学校の学びと連動しながら、児童・生徒が具体的にイメージし、自分自身や他者について考えられる授業展開（体験・ワーク等）について、どのようにすれば良いか。

小学生（高学年）・中学生対象としたプログラムの方向性

（小学生）：ヒトの誕生

＜授業の流れ＞
・ヒトの受精卵
・胎児の成長
・胎児から赤ちゃんへ
・自分で選択する人生
・まとめ

＜取り入れたいワーク（体験中心）＞
・受精卵の大きさを体感しよう
・胎児の心音を聞いてみよう
・羊水の味はどんな味？
・赤ちゃん抱っこ体験

（中学生）：思春期の変化

＜授業の流れ＞
・からだの変化
・脳とこころの変化
・友だちから相談されたら
・どこに相談に行けばいい？

＜取り入れたいワーク
（自分で考えること中心）＞
・もし、友達から相談されたら
・どちらの聞き方が、話しやすい
・「言わないで」と言われたら

今後の進め方（案）

スケジュール

●令和８年　11月～12月	モデル講座　実施
●令和９年　２月上旬	第３回検討会
●令和９年　２月	きょうとプレコンアドバイザー養成講座
●令和９年　４月以降	きょうとプレコンアドバイザー派遣事業 希望校の募集開始
●令和９年　９月以降	きょうとプレコンアドバイザー派遣開始